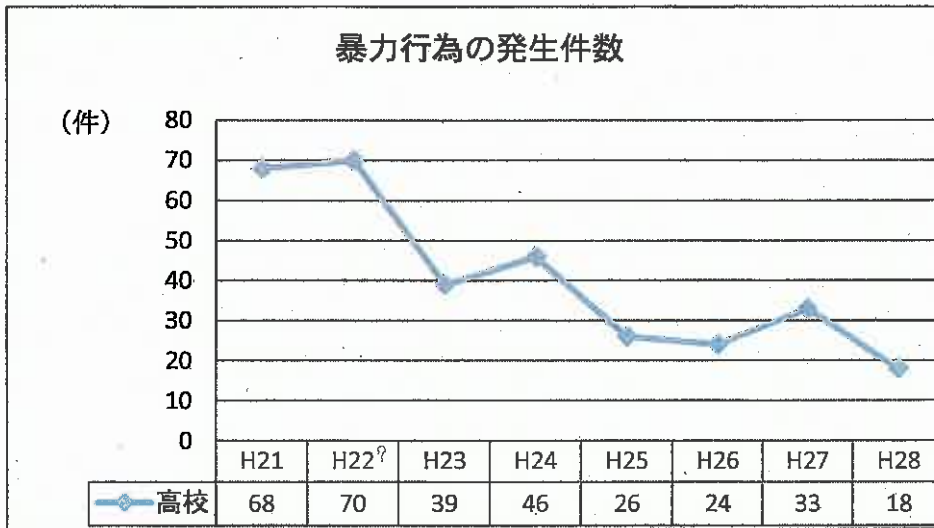


平成 28 年度 生徒指導上の諸課題調査の概要 高校教育課

1 暴力行為の発生件数

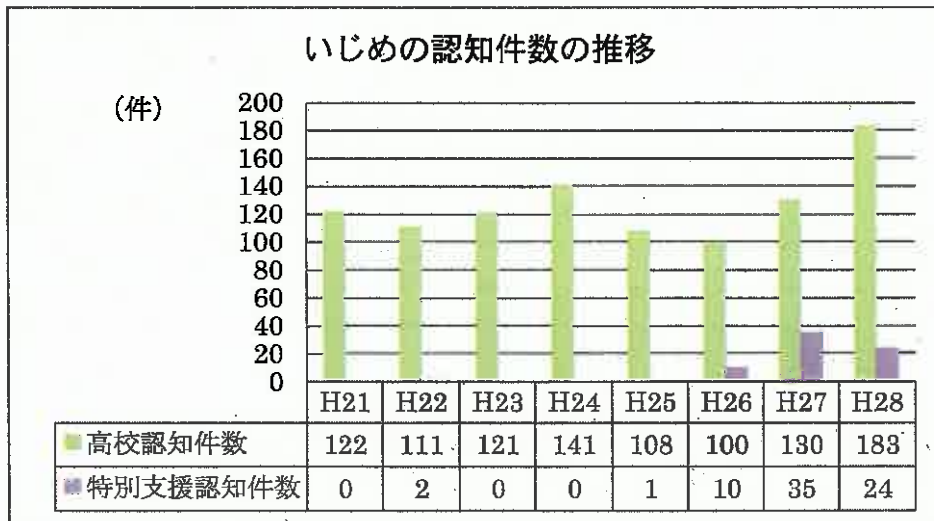


前年度に比べ 15 件の減少であり、全体として減少傾向にある。

中でも H28 年度は 1 年生の減少が顕著であり (H27 年度 30 件→ H28 年度 9 件)、中学校から高校への円滑な接続が図られていると考えられる。

2 いじめの認知件数

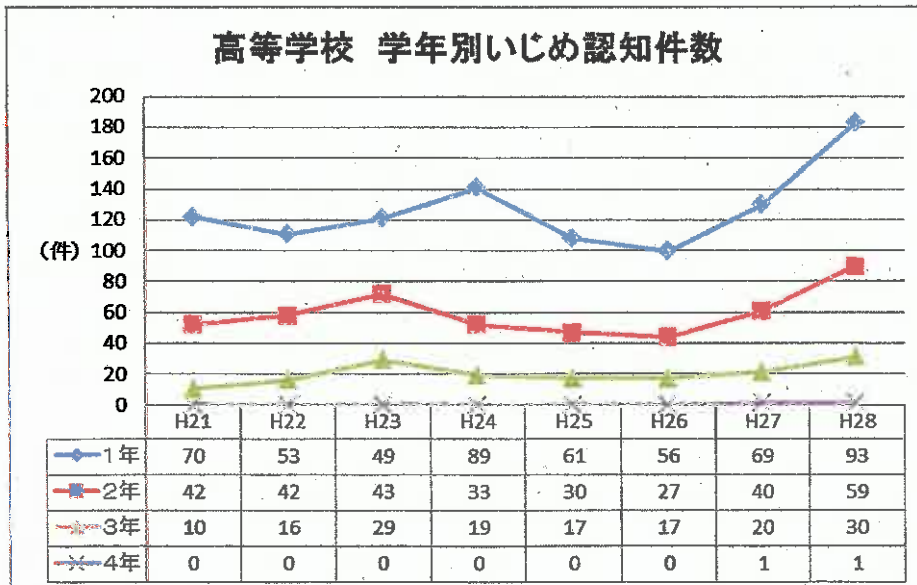
(1) 経年変化



各校で積極的認知に努めており、全体として増加傾向にある。いじめの認知に関して理解が進んできたと考える。

(参考: 国として、現状におけるいじめ認知件数の増加は、実態把握のために良い傾向であるとしている。)

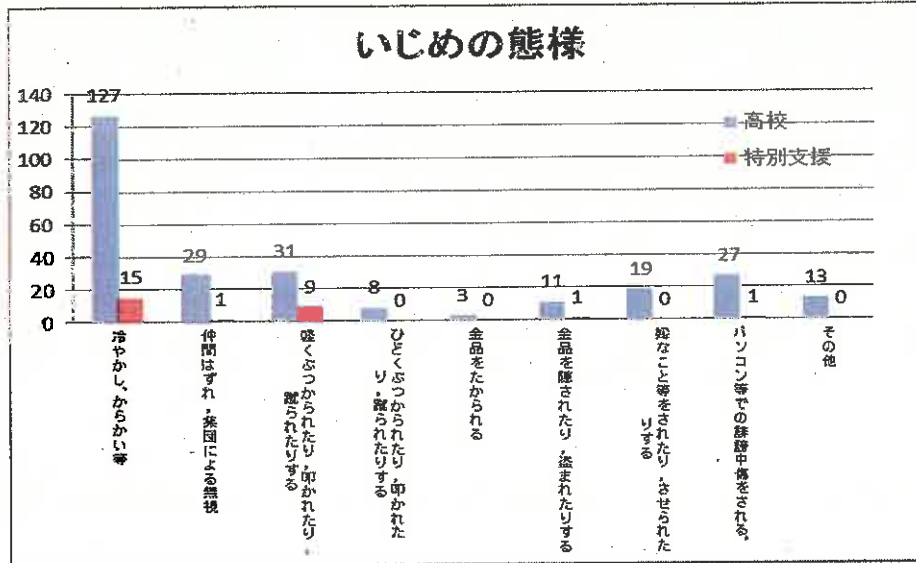
(2) 学年別



学年が上がるとともに認知件数が減少する状況は変わらない。

1 年生の増加については、特に入学時から些細な事象に対しても注意して丁寧な指導行っている成果と、広範囲な中学校から生徒が集まるため人間関係の構築に苦勞しているためと考えられる。

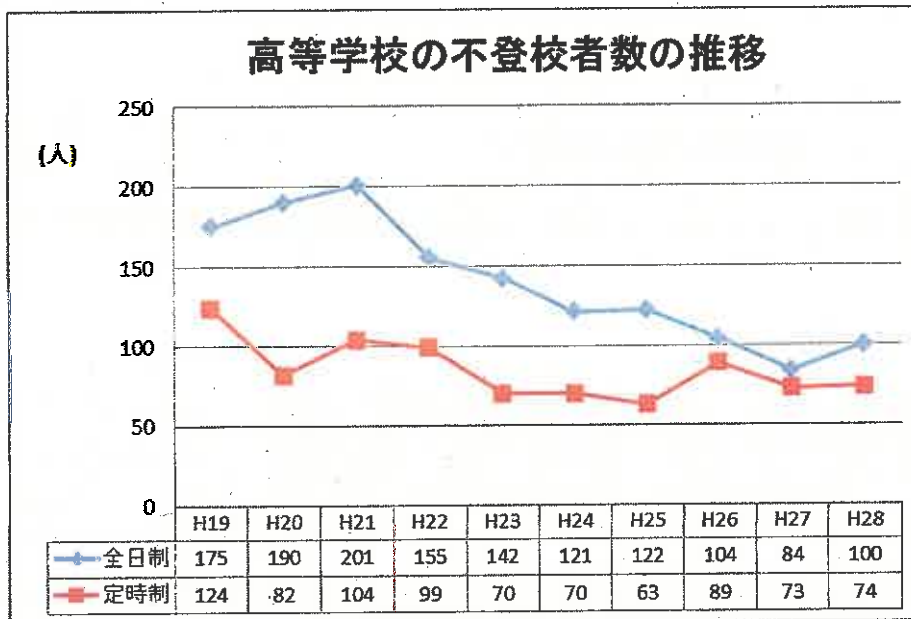
(3) いじめの態様



高校、特別支援学校共に、冷やかしのからかい等が最も多い。高校では、パソコンや携帯電話等で誹謗中傷や嫌なことをされるが、10.1%と4番目に多い状況。(ただし、割合は全国の17.4%に比べて低い水準。)

3 不登校者数

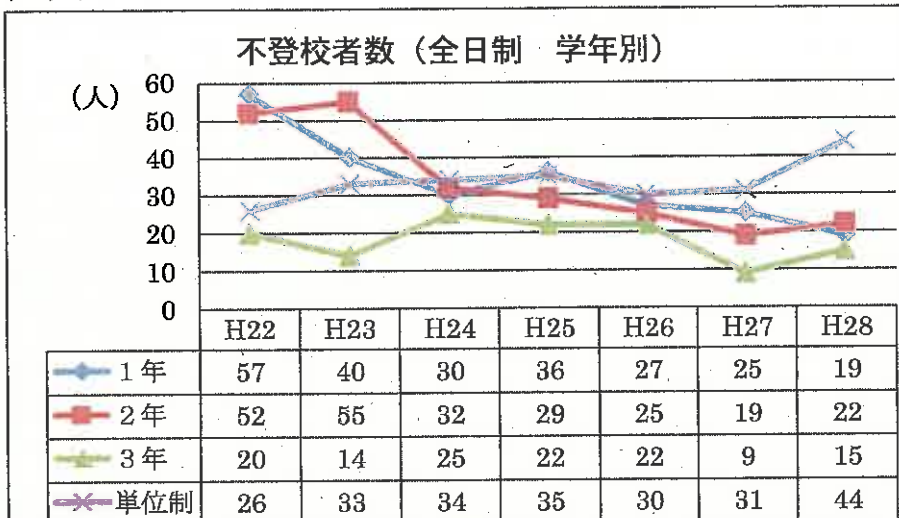
(1) 経年変化



経年変化をみると減少傾向にあるが、全日制においてやや増加した。SCの配置、SC・SSWの派遣、養護教諭の複数配置等、教育相談体制の整備を一層進める必要があると考える。

全日制 100人 (内90日以上欠席が9人、内出席日数10日以下が0人、内出席日数0日が0人)
 定時制 74人 (内90日以上欠席が3人、内出席日数10日以下が0人、内出席日数0日が0人)

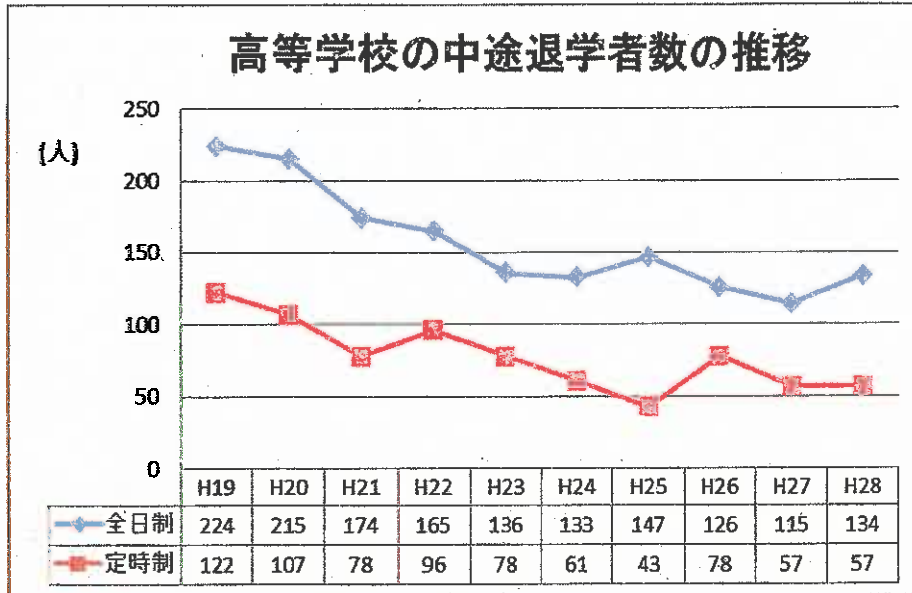
(2) 学年別



1年生は減少が続いており、2・3年生が微増、単位制が増加している。教育相談体制の整備を一層進める必要があると考える。

4 中途退学者数

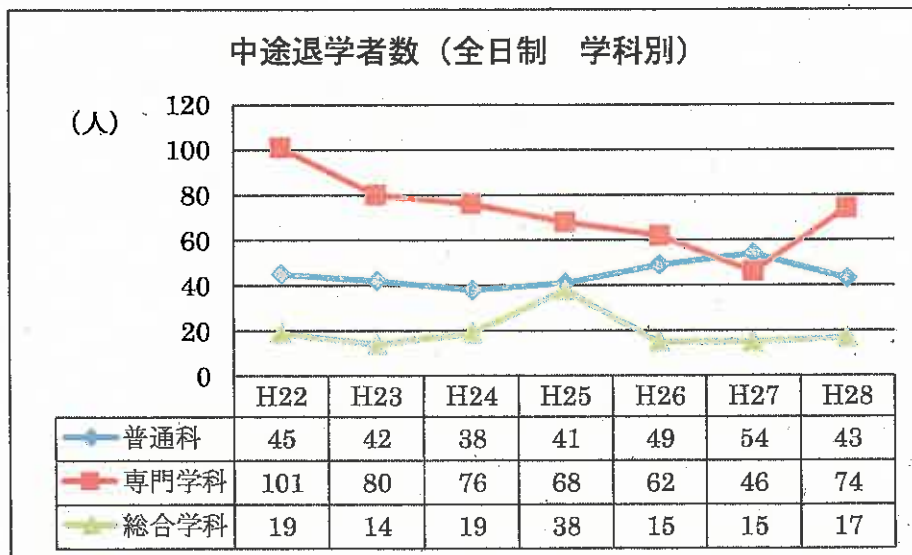
(1) 経年変化



全日制では、不登校と同様に増加した。

教育相談体制の整備を一層進める必要があると考える。

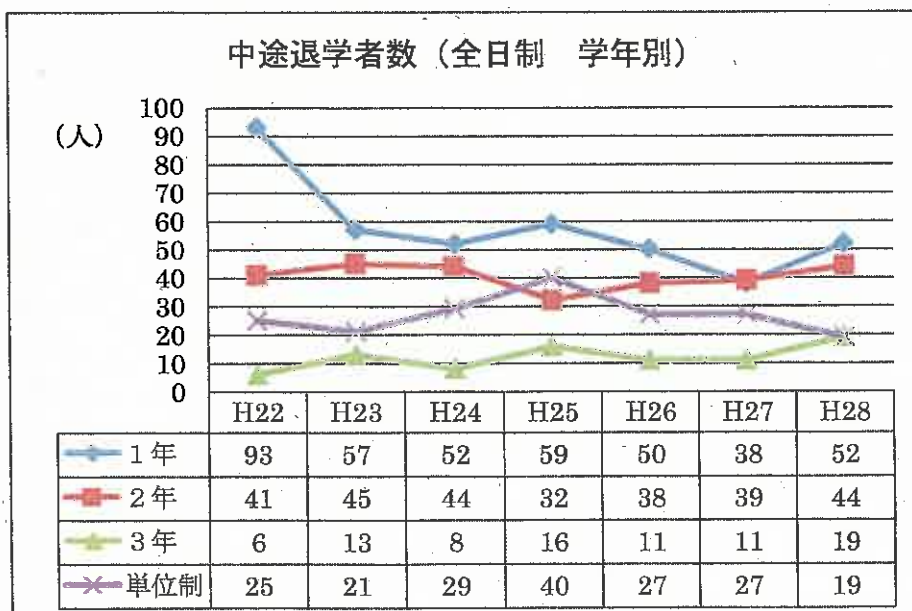
(2) 学科別



普通科で減少、総合学科で微増、専門学科で増加している。

生徒たちに将来の目的を持たせるための指導強化が必要である。

(3) 学年別



学年が上がるにつれて減少するが、H28年度は各学年共に増加に転じた。

中学校と情報の共有を図り、学校説明会・体験入学等を実施して不適應の事前防止に努めているが、中学校からの円滑な接続のために一層の努力が必要である。